

芸術科『書道Ⅰ』学習指導案

府立東淀川高等学校

1. 日 時 平成 27 年〇月〇日 (〇) 〇・〇限
2. 場 所 府立東淀川高等学校 2 号館 2 階 書道教室
3. 対 象 学 年 第 1 学年 芸術科書道Ⅰ選択生 40 名 (1 年〇組)
4. 単 元 名 「漢字の書 楷書・行書の古典から学ぶ」(14 時間)
5. 教 科 書 「書道Ⅰ」東京書籍
6. 単 元 目 標

楷書体、行書体の代表的古典を臨書・鑑賞することで用筆法、運筆法及び字形の取り方を理解させ基礎的な書の表現力を養いたい。

- (1) 楷書・行書の伝統と文化に関心を持ち、表現や鑑賞の創造的活動に主体的に取り組む。
(書への関心・意欲・態度)
- (2) 楷書・行書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し表現を工夫する。
(書表現の構想と工夫)
- (3) 楷書・行書の用筆法、運筆法を理解し、創造的な表現の技能を身に付け表す。
(創造的な書表現の技能)
- (4) 日常生活における楷書・行書の効用や伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、楷書行書のよさや美しさを創造的に味わう。
(鑑賞の能力)

7. 教 材 観

「唐の四大家」の作品、「蘭亭序・争坐位文稿」、「空海・嵯峨天皇」の作品などの古典の鑑賞及び臨書を通して、用筆法や字形のとり方等の違いによって、書体や書風の違いが生じることを学習し、文字を素材とした芸術である書道として、古典を中心に表現、鑑賞することを身に付けさせたい。1 年次に楷書、行書の様々な古典を扱うことで、書の伝統と文化に関心を持たせ、効果的な表現の技能を身に付けさせることを通し、生涯にわたり書を愛好する心情を育てることにつなげたい。

8. 生 徒 観

「略」

9. 指 導 観

起筆・送筆・終筆など基本的な事項から指導し、一斉指導や机間指導での個々の支援により、楷書体、行書体の代表的古典をいくつか扱い、臨書、鑑賞することで、書表現の楽しさと感性を働かせて工夫する喜びを味わわせたい。DVD、VTR、カメラ等の視聴覚機器を使用し、表現、鑑賞する過程でわかりやすく書の美を体験的に感じ取らせ、より意欲的、主体的に学習に取り組ませたい。

10. 単 元 の 評 価 規 準

	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
単 元 の 評 価 規 準	[表現] 漢字の書の伝統・文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとしている。 [鑑賞] 漢字の書の伝統や文化について関心を持ち、書のよさや美しさを感じ取り、鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	漢字の書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、漢字の書の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用、文字および書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを味わっている。

学習活動に即した評価規準	[表現・関心①] 古典の美とその技法に関心を持ち、表現技法を高めようとしている。 [鑑賞・関心②] 中国等の文化と書の伝統と文化について関心を持ち、そのよさや美しさを感じ取ろうとしている。	[構想①] 漢字の書の美とその技法を学び、普遍性のある表現を工夫している。	[技能①] 漢字の楷書体、行書体の基本的な用筆・運筆、字形の取り方などを理解し、効果的な表現の技法を身に付け表している。	[鑑賞①] 楷書体、行書体について理解している。 鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、書のよさや美しさを感じ取っている。
--------------	--	--	---	---

11. 指導と評価の計画（全 16 時間）

時間	学習のねらい	学習活動	学習活動に即した評価規準				評価方法、留意点等
			書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力	
1・2	鑑賞や相互批評が古典の特徴把握に有効に結び付くことを理解する。 「九成宮醴泉銘」の用筆、運筆、字形のとり方の特徴を捉え表現する。	半紙2字書・4字書により、「九成宮醴泉銘」を学ぶことで楷書の特徴を理解し、筆順を始め、用筆法・運筆法・キリッと引き締まった書線を理解し表現する。	関① 関②		技①	鑑①	「九成宮醴泉銘」の用筆、運筆、字形のとり方を理解し、臨書に意欲的に取り組んでいる。（観察） 「九成宮醴泉銘」の書風を理解し、特徴を分析できた。（作品） 《評価の場面Ⅰ》
3・4	鑑賞や相互批評が古典の特徴把握に有効に結び付くことを理解する。 「孔子廟堂碑」の用筆、運筆、字形のとり方の特徴を捉え表現する。	半紙2字書・4字書により、「孔子廟堂碑」を学ぶことで楷書の特徴を理解し、筆順を始め、用筆法・運筆法・穏やかで伸びやかな書線を理解し表現する。	関① 関②		技①	鑑①	「孔子廟堂碑」の用筆、運筆、字形のとり方を理解し、臨書に意欲的に取り組んでいる。（観察） 「孔子廟堂碑」の書風を理解し、特徴を分析できた。（作品） 《評価の場面Ⅱ》
5・6	鑑賞や相互批評が古典の特徴把握に有効に結び付くことを理解する。 「雁塔聖経序」の用筆、運筆、字形のとり方の特徴を捉え表現する。	半紙2字書・4字書により、「雁塔聖経序」を学ぶことで楷書の特徴を理解し、筆順を始め、用筆法・運筆法・太細の変化に飛んだ書線を理解し表現する。	関① 関②		技①	鑑①	「雁塔聖経序」の用筆、運筆、字型のとり方を理解し、臨書に意欲的に取り組んでいる。（観察） 「雁塔聖経序」の書風を理解し、特徴を分析できた。（作品） 《評価の場面Ⅲ》

7 ・ 8	鑑賞や相互批評が古典の特徴把握に有効に結び付くことを理解する。 「自書告身帖」の用筆、運筆、字形のとり方の特徴を捉え表現する。	半紙2字書・4字書により、「自書告身帖」を学ぶことで楷書の特徴を理解し、筆順を始め、用筆法・運筆法・堂々とした力強い書線を理解し表現する。	関① 関②		技①	鑑①	「自書告身帖」の用筆、運筆、字形のとり方を理解し、臨書に意欲的に取り組んでいる。(観察) 「自書告身帖」の書風を理解し、特徴を分析できた。(作品) 《評価の場面Ⅳ》
9 ・ 10 本時	鑑賞や相互批評が古典の特徴把握に有効に結び付くことを理解する。 「蘭亭序」の用筆、運筆、字形のとり方の特徴を捉え表現する。	半紙2字書・4字書きにより、「蘭亭序」を学ぶことで、行書の特徴を理解し、筆順を始め、用筆法・運筆法・のびやかで立体感のある書線を理解し表現する。	関① 関②		技①	鑑①	「蘭亭序」の用筆、運筆、字形のとり方を理解し、臨書に意欲的に取り組んでいる。(観察) 「蘭亭序」の書風を理解し、特徴を分析できた。(作品) 《評価の場面Ⅴ》
11 ・ 12	鑑賞や相互批評が古典の特徴把握に有効に結び付くことを理解する。 「争坐位文稿」の用筆、運筆、字形のとり方の特徴を捉え表現する。	半紙2字書・4字書きにより、「争坐位文稿」を学ぶことで、行書の特徴を理解し、筆順を始め、用筆法・運筆法・力強く変化に富んだ書線を理解し表現する。	関① 関②		技①	鑑①	「争坐位文稿」の用筆、運筆、字形のとり方を理解し、臨書に意欲的に取り組んでいる。(観察) 「争坐位文稿」の書風を理解し、特徴を分析できた。(作品) 《評価の場面Ⅵ》
13 ・ 14	鑑賞や相互批評が古典の特徴把握に有効に結び付くことを理解する。 「風信帖」の用筆、運筆、字形のとり方の特徴を捉え表現する。 1学期のまとめとして、小筆で楷書体(九成宮醴泉銘)と行書体(集字聖教序)を用いて作品集の表紙を作成する。	半紙4字書きにより「風信帖」を学ぶことで、行書の特徴を理解し、筆順を始め、用筆法・運筆法・重厚で深みがある書線を理解し表現する。 楷書体「九成宮醴泉銘」、行書体「集字聖教序」で集字した語句を元に、小筆で表紙を作成する。 文字の大きさ・レイアウトは定めず、まとまった表紙を目標とする。 氏名についても字書で調べ、行書体で書く。 これまでの練習分をまとめて提出する。		構①	技①		「風信帖」の用筆、運筆、字形のとり方を理解し、臨書に意欲的に取り組んでいる。(観察) 「風信帖」の書風を理解し、特徴を分析できた。(作品) 「九成宮醴泉銘」「蘭亭序」の学習を生かし、小筆の作品で構想を工夫し表現できている。また、表紙を工夫して作成できた。 (観察・作品) 《評価の場面Ⅶ》

12. 観点別評価の進め方《評価の場面Ⅴ》について

学習活動に即した評価規準	評価基準	具体的な事項 (評価の総括につながる事項)
【書表現の技能】 ・「蘭亭序」の書風を理解し、特徴を分析できている。	【A】 「蘭亭序」・行書の用筆、運筆、字形のとり方を理解し、表現する技能を身に付け意欲的に取り組んでいる。 【B】 「蘭亭序」・行書の用筆、運筆、字形のとり方を理解できているが、表現する技能が不足している。 【C】 「蘭亭序」・行書の用筆、運筆、字形のとり方を理解できておらず、表現技能も伴わない。	「蘭亭序」の行書体の特徴を理解する。 ・点画や字形が曲線的 ・点画の連続 ・点画の省略 ・点画の変化 ・筆順の変化 筆順を含む、用筆・運筆の技法を習得する。 字形の構成を理解し、全体の構成を工夫する。 変化に富んだ書線を理解する。

13. 本時のねらい

王羲之「蘭亭序」の行書の特徴を理解し、筆順を始め、用筆法・運筆法を習得させ、リズムの大切さを理解させ表現させる。

14. 本時の学習

○本時の目標

王羲之「蘭亭序」の行書体の特徴を理解する。

- ・点画、字形が曲線的に
- ・点画の連続
- ・点画の省略
- ・点画の変化
- ・筆順の変化

筆順を含む、用筆・運筆の技法を習得する。

字形の構成を理解し、全体の構成を工夫する。

変化に富んだ書線を理解する。

○本時の評価規準

関①② 技① 鑑①

○本時で扱う教材

(ア) 教科書：「書道Ⅰ」（東京書籍）P32～P41

(イ) 王羲之「蘭亭序」 教科書 拡大プリント

5 時限目 P40 天朗

6 時限目 P41 流觴曲水

○学習指導の展開

5 時限目

	学習活動	指導上の留意点	評価規準と 評価方法
導入 15 分	用具の準備 ・前次に学習した VTR を再度視聴し、行書体について理解を深める。 ・教科書 p 32 を読み行書の特徴を確認する。 ・本時の内容の確認	・出席確認。準備を促す。忘れ物の確認。 ・前次の内容を確認させる。 ・生徒を指名し読ませる。 ・教科書をしっかり見ているか確認する。 ・拡大掲示を利用し、行書の特徴を、再度確認させる。 ・点画や字形が曲線的 ・点画の連続 ・点画の省略 ・点画の変化 ・筆順の変化 ・書き順を含め、行書体の特徴を見つけさせる。 ・王羲之の行書の特徴である線の太細の差の変化に気づかせる。	・「蘭亭序」の美とその技法に関心を持ち、表現技法を高めようとしている。 (観察) 関①関②
展開 30 分	・学習目標の確認 (プロジェクターによる拡大示範) ・課題の練習	・カメラによる示範を見せ、説明を加え、理解を深める。 ・示範を見ているか確認する。 ・筆先の動きを見せ、連続するリズムの大切さを理解させる。筆順にも注意させる。 ・赤マジックで補助線を入れ一層の理解を図る。 ・姿勢・筆の持ち方を含めて指導を行う。 ・2 文字は墨を付けないで連続して書く事を指示する。 ・机間指導を行う。(適宜示範を行う) ・多くの生徒が理解できていない部分を選び、全体に対しても指導を行う。	・書き順を含め、行書体の技法を習得している。 (観察) ・2 文字を半紙に効果的にまとめる工夫をしている。 (観察) 技①
まとめ 5 分	・練習した半紙作品の中で本時の目標に照らし、良いと考える作品を自ら選び、組・番・氏名を書き後ろに掲示する。	・組・番号・名前の書く位置を示し、丁寧に書くことを指示する。 ・次限の予告を行い、より良い作品となるよう激励する。	・「蘭亭序」の書風を理解し、特徴を分析できた。 (作品・観察) 鑑①

6 時限目

	学習活動	指導上の留意点	評価規準と 評価方法
導入 5分	作業の準備 ・ 本時の内容の確認	・ 出席確認 ・ 前時までの内容を確認させる。 ・ 拡大掲示を利用し、行書の特徴を、再度確認させる。 ・ 点画、字形が曲線的 ・ 点画の連続 ・ 点画の省略 ・ 点画の変化 ・ 筆順の変化 ・ 書き順を含め、行書体の特徴を見つけさせる。 ・ 王羲之の行書の特徴である線の太細の差に気づかせる。	・ 「蘭亭序」の美とその技法に関心を持ち、表現技法を高めようとしている。 (観察) 関①
展開 30分	・ 学習目標の確認 (プロジェクターによる拡大示範) ・ 課題の練習	・ 本時のプリントの配付。 ・ カメラによる示範を見せ、説明を加え、理解を深める。 ・ 示範を見ているかを確認する。 ・ 筆先の動きを見せ、連続するリズムの大切さを理解させる。筆順にも注意させる。 ・ 赤マジックで補助線を入れ一層の理解を図る。 ・ 姿勢・筆の持ち方を含めて指導を行う。 ・ 2文字は墨を付けないで連続して書く事を指示する。 ・ 机間指導を行う。(適宜示範を行う) ・ 多くの生徒が理解できていない部分を選び全体に対しても指導を行う。	・ 書き順を含め、行書体の技法を習得している。 (観察) ・ 4文字を半紙に効果的にまとめる工夫をしている。 (観察) 技①
まとめ 15分	・ 練習した半紙作品の中で本時の目標に照らし、良いと考える作品を自ら選び、組・番・氏名を書き後ろに掲示する。 - 後片付け	・ 組・番・氏名の書く位置を示し、丁寧に書くことを指示する。 ・ 後片付けをきちんとさせる。 ・ 次限の予告を行い、より良い作品となるよう激励する。	・ 「蘭亭序」の書風を理解し、特徴を分析できた。 (作品・観察) 鑑①

15. 具体的な指導の改善内容

評価基準 (9・10 限目 評価規準 技①に基づく)

- A 【十分満足できる状況】⇒行書の用筆、運筆、字形のとり方を理解し、表現する技能を身に付けている。
⇒次の時間でどのように対応(指導)するか?
…掲示作品を見させて、褒め称え何故良い評価をもらったのか説明する。
- B 【おおむね満足できる状況】⇒行書の用筆、運筆、字形のとり方を理解できているが、表現する技能が不足している。
⇒次の時間でどのように対応(指導)するか?
…掲示作品を見させて、褒め称えながらも注意すべきことを指示し、今後の作品制作に生かさせる。
- C 【努力を要する状況】⇒行書の用筆、運筆、字形のとり方を理解できておらず、表現技能も伴わない。
⇒次の時間でどのように対応(指導)するか?
…個別に指導を行い、行書の用筆、運筆、字形のとり方を理解できるようにする。